九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[006] 生活体験学習研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/8995

出版情報：生活体験学習研究. 6, 2006-03-28. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

日本生活体験学習学会誌　第６号　125―127（2006）

日本生活体験学習学会　事務局報告

Ⅰ　理事会会議日程

第１回理事会　2005年３月13日
　於　九州大学社会教育研究室
第２回理事会　2005年４月23日
　於　九州大学社会教育研究室
第３回理事会　2005年６月19日
　於　九州大学社会教育研究室
第４回理事会　2005年９月11日
　於　九州大学社会教育研究室
第５回理事会　2005年11月12日
　於　社会教育総合センター

Ⅱ　会員実数

全165名
　個人会員　162名
　法人会員　３名
　　（2005年11月12日　現在）

Ⅲ　これまでの活動

◆第６回研究大会の開催
　2005年１月29日
　於　福岡県立社会教育総合センター
◆学会誌第５号の発刊
　2005年１月25日　発刊
◆学会通信の発行
　2005年５月２日　第22号発行
　2005年８月11日　第23号発行

◆地域研究・実践活動支援としての地方セミナーの開催
　○「長崎通学合宿研究会」への参加
　　2005年６月25日、26日
　　国立諫早少年自然の家にて開催
　　※学会から正平副学会長・古賀理事の両名が参加
　○熊本シンポジウムの開催
　　2005年８月７日
　　芦北町社会教育センターにて開催
　　※基調講演として横山学会長が「子どものコミュニケーション力の育成と幼・保・小連携」のテーマで講演、パネルディスカッションでは「幼・保・小連携と生活体験―『なめらかな接続』を考える」をテーマに、学会から横山学会長、井上豊久会員が登壇。

Ⅳ　総会・理事会での決定事項

(1)　第６回総会における決定事項

まず、事務局より2004年度の会務報告がなされ、了承されました。

次に、2004年度の会計決算報告がなされ、会計監査である松田会員から相違ないとの監査報告がなされ、これが了承されました。

2005年度の会計予算案が提出され、これが了承されました。

紀要編集委員会より学会誌第５号が発刊されたことの報告および本年度も学会誌を発刊(第６号)することが報告され、これが了承されました。また、学会員による「生活体験学習事典」が編纂中である旨が報告され、了承されました。

事務局長より、実践交流会を一時休止し、研究大会へ合併し、研究大会をより拡大した形で実施していくこと、その形態や内容については、今後、理事会にて協議していくことが提案され、了承されました。

総会議案の詳細については学会通信第22号に記載しています。

(2)　第１回理事会での決定事項

第１回理事会では、以下の４点が協議の上、承認されました。

第一に、第６回研究大会における参加者数及び収支決算が事務局より報告が行われるとともに、近年の参加者数の減少に対して研究大会自体の内容面での見直しが必要であるとの反省から、次回理事会までに学会長・副学会長・事務局長・緒方理事の４名にて、研究大会内容改善（案）を協議する機会を設定する。

第二に、学会の新理事組織体制を以下の通りとする。

○学会長：横山正幸

○副会長：正平辰男
○事務局長：南里悦史
○紀要編集：横山正幸・相戸晴子・佐藤洋美・窪田貴子
○研究：古賀倫嗣・上野景三・末崎雅美・井上豊久・桑原広治・時田純子
○学会通信：末崎雅美・東内瑠里子
○研究大会：緒方泉・森山沾一
○監査：松田武雄・小方信二
○事務局：永田誠（幹事）・大村綾（事務局員）

第三に、学会誌第6号において新たに特集テーマを設定することが提案され、今後、紀要編集委員会を中心に協議する。

第四に、学会員だけではなく、一般にも学会の存在と生活体験の意義を呼びかけるために学校関係者、各種団体・機関と連携した九州の各県でのシンポジウムの開催、他学会でのラウンドテーブルなどの開催など新しい活動を企画する必要性が提案され、6月末の長崎県での生活体験・通学合宿交流会における共催や、古賀理事を中心に熊本県教育委員会との共催でのシンポジウムの開催といった地方企画開催を実施することが確認される。

(3) 第2回理事会での決定事項

第2回理事会では、以下の6点が協議の上、承認されました。

第一に、新たに事務局員として三好洋子（九州大学大学院）が加わる。

第二に、3月23日に行われた研究大会企画会議での協議を踏まえ、第7回研究大会を2005年11月12日（土）、13日（日）の日程にて、以下のプログラム（案）にて開催する旨が提案された。加えて、11月13日においては、会場となる福岡県立社会教育総合センターの主催事業である「体験活動ワークショップ」と共同開催する。

＜プログラム（案）＞

12日　午後：分科会・総会
　　夜間：交流会
13日　午前：ワークショップ見学
　　午後：公開シンポジウム（13：00〜15：30）

第三に、研究大会内容としては、大会テーマを「子どもの学力と生活体験を考える」とし、分科会構成は以下の4分科会とする。

第1分科会　障がい児と生活体験
　　＜担当：正平・緒方＞
第2分科会　子どもの居場所（地域子ども教室）と生活体験　＜担当：相戸・井上＞
第3分科会　『総合的な学習の時間』と生活体験
　　＜担当：桑原・古賀＞
第4分科会　自由テーマ発表（第1〜第3の分科会に属さないテーマでの研究発表）　＜担当：事務局＞

第四に、学会誌第6号の発刊について、紀要編集委員会より特集テーマを「子どもの学力と生活体験」とすること、研究大会までの発刊を目指し、論文募集、編集作業を進めることが確認される。

第五に、モデル実践校の立ち上げについて、教育に関する理論的・実践的な関わりを構築していくために学会として正式に連携・協力を進めていくことが提案され、各実践校・団体と引き続き協議する。

第六に、地域研究・実践活動支援としての地方セミナーの開催について、8月に就学前教育と学校教育の連携をメインテーマに、生活体験学習学会と芦北町教育委員会との共催、熊本県教育委員会の後援にて実施することが古賀理事より報告される。また、6月25日、26日に「長崎通学合宿研究会」が開催され、学会から正平・古賀の両理事が出席予定であることも報告される。

(4) 第3回理事会での決定事項

第3回理事会では、以下の5点が協議の上、承認されました。

第一に、個人情報保護の観点等から会員の会費納入について協議され、会費の納入状況を別紙で同封することと、振込用紙の同封を未納者のみにすることが確認される。

第二に、紀要編集担当理事から、学会誌第6号の論文アプライ状況が報告され、依頼論文及び書評原稿についての執筆者、参考掲載資料等についての構成が確認される。

第三に、研究担当理事より、第７回研究大会の準備状況について報告されるとともに、今後の自由研究発表及びシンポジウムに関する準備日程について確認される。

第四に、地域研究・実践活動支援について、６月25日、26日に「長崎通学合宿研究会」が国立諫早少年自然の家にて開催予定であり、学会から正平・古賀が参加予定であることが報告される。また、熊本セミナーは、８月７日（日）に芦北町社会教育センターを会場に開催予定であり、基調講演として、横山正幸「子どものコミュニケーション力の育成と幼・保・小連携」、パネルディスカッションは「幼・保・小連携と生活体験―『なめらかな接続』を考える」をテーマに、学会から横山学会長、井上豊久会員、相戸晴子会員の三理事が登壇することも報告される。

第五に、学会通信担当理事より、学会通信第23号＜研究大会案内号＞の発行について報告される。

⑸　第４回理事会での決定事項

第３回理事会では、以下の５点が協議の上、承認されました。

第一に、第７回研究大会について、シンポジウムテーマを「子どもの日常生活から学力問題を考える―生活リズムをつくれない子どもは、学ぶことができない―」とすることが提案され、登壇者として、以下の通りとすることが確認された。

＜シンポジウム登壇者＞

コーディネーター

桑原広治（熊本県球磨村立一勝地第二小学校）

シンポジスト

横山正幸（第一福祉大学）

正平辰男（東和大学）

廣畑伸暁（福岡県宇美町生涯学習推進事務局）

高橋幸子（福岡県鞍手町教育委員会）

コメンテーター

大坪靖直（福岡教育大学）

第二に、事務局より、自由研究発表アプライ状況について報告されるとともに、依頼発表者について協議される。依頼発表者には事務局より依頼文書発送し、承諾を得ることも確認される。

第三に、紀要編集担当理事より、学会誌第６号の発刊の進捗状況について報告され、書評を２本追加すること、研究論文は学会誌執筆規定に則り査読委員会を組織し、審査を行うことが確認される。

第四に、学会通信担当理事より、学会通信第24号＜研究大会特集号＞の発刊について12月中旬に発行することが提案され、確認される。

⑹　第５回理事会での決定事項

第５回理事会では、第７回総会における議案が協議の上、承認されました。

総会議案については、第７回研究大会における総会を経て、学会通信第24号に掲載予定となっています。